

東松山市立市民病院広報誌

あゆみ

第11号

2021年11月1日発行

Higashimatsuyama Municipal Hospital

東松山市立市民病院

〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山2392番地

TEL:0493-24-6111 FAX:0493-22-0887

～平穏な日常が戻るときまで
私たちは闘い続けます～

CONTENTS

新型コロナウイルス感染症に関する市民病院の取り組みについて……………	2
新しい医療機器の導入のお知らせ……………	3
Pick Up!! 皮膚科のご紹介……………	4
新しい医師が赴任しました！……………	4
医師退職のお知らせ……………	4

新型コロナウイルス感染症に関する市民病院の取り組みについて

仮設診療室を設置しています



発熱症状等のある患者さんの診察を行うため、専用の仮設診療室を設置しています。仮設診療室を使用することで、発熱症状がある方や新型コロナウイルス感染症の疑いのある方が、病院内に入らずに診察や検査を行うことができます。また仮設診療室内でも病院スタッフが入ることができるスペースを細かく区画して、スペースごとに決められた感染対策（防護服、マスク、ゴーグルの着用など）を徹底しています。

新型コロナウイルス感染症患者専用病棟を整備しました

新型コロナウイルスに感染された方を受け入れるため、新型コロナウイルス感染症患者専用病棟を整備しました。1フロアを新型コロナ入院患者専用に変更し、ゾーニング等の感染対策を行った上で、入院が必要な方の治療に当たっています。感染者急増時には最大で16床を確保し、市内だけでなく県内各所からの入院患者を受け入れています。



市民病院では、埼玉県から指定されている第二種感染症指定病院として、新型コロナウイルス感染症に関する診察及び入院・外来での治療を行っています。

新型コロナウイルスワクチン接種を行っています

市民病院では、新型コロナウイルスワクチンの個別接種を平日ほぼ毎日行っています。ワクチン接種に来られた方が受付等で混雑・密集することを避けるため、予約時間に個別にお呼びするなどの工夫をしています。また、動線を一方通行にすることで人の流れが交差しないように案内し、予診、接種、待機を行う場所に案内係を配置して、スムーズに接種が受けられるよう取り組んでいます。



外来での抗体カクテル療法を実施しています



新型コロナウイルスに感染された方の重症化を防ぐため、抗体カクテル療法を実施しています。この治療法は、新型コロナウイルスが増殖するのを防ぐ2種類の抗体（カシリビマブ、イムデビマブ）を混ぜ合わせて投与するもので、基礎疾患を有するなどの要件に該当する方を対象としています。一般的には入院をした上で治療を行うことが多いものですが、当院では外来での治療も行っています。点滴での投与となるため、点滴用ベットやリクライニング椅子を用意し、治療中の患者さんの負担を軽減できるよう取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中ではありますが、市民病院では、院内感染等を発生させないよう、万全の感染対策を行いながら診療を行っています。これからも、地域医療に貢献し、地域の皆様が安心して生活できるよう、全力で取り組んでいきます。

新しい医療機器の導入のお知らせ

放射線科

CT検査機器が新しくなりました！

CT (Computed Tomography) 装置とは、コンピュータ断層撮影装置の略称で、撮影部位の周囲からX線を照射することによって体の断面（輪切り）像を作り出す装置です。CT検査では、通常のX線撮影と比べてより精密な画像診断が可能になります。

当院では、令和3年9月に機器を更新し、これまでよりも性能がアップしました。これにより、検査の際の患者さんの負担が軽減されるなど、多くの点で検査の質が向上しました。今後とも、安全でより良い放射線診療を提供できるよう努めてまいります。

【主な改良点】

- 撮影時間をより短縮することができます
- より鮮明で、きれいな画像を撮影することができます
- 低線量での撮影が可能となり、被ばく量を低減させることができます
- NEW** ● 患者さんの確認用タッチパネルを導入し、安心・安全な検査ができます
- NEW** ● AI搭載カメラにより、患者さんごとに最適な撮影位置の抽出ができます
- NEW** ● 皮下脂肪及び内臓脂肪の解析ができるようになります
- NEW** ● 腰回りの筋肉（大腰筋領域）の面積及び体積の観察ができます
- 体内金属がある方でも、より多くの診断可能な画像を提供できるようになります



CT検査装置



AIカメラ映像



筋肉量の画像



検査の様子

臨床検査科

超音波診断装置を更新しました！



▲超音波診断装置



▶検査の様子



エコー検査画像▶

超音波診断装置は、体表から体内に超音波を発信し、体内の臓器などに当たって反射される信号（エコー）を測定して、画像として映し出す検査装置です。超音波が伝わりやすいように、体の表面にゼリーを塗って検査を行います。痛みや放射線の被ばくがなく、体への負担が少ない検査です。

9月下旬から新しい超音波診断装置での検査を開始し、これまでよりも画質が向上したことで、質の高い検査を行うことができるようになりました。またエラストグラフィという新しい機能が追加され、臓器や腫瘍の硬さについての評価ができるようになりました。これにより、例えば乳腺腫瘍の検査を行う場合、良性・悪性の判定がしやすくなることを期待できます。

患者さんの負担をなるべく軽減し、正確かつ安全な検査を行えるよう、職員一同取り組んでいきます！

pick Up!! 皮膚科のご紹介

Q 市民病院の皮膚科の診療体制と特徴について教えてください！

A 現在当科では月～土曜の午前中は外来診療を中心にを行い、午後は外来診療のほか緊急生検や外科的処置、入院中の患者さんの診察を行っております。また、隔週の木曜日にはイボや腫瘍切除などの日帰り手術を行っているほか、不定期ではありますが金曜午後に入院手術をしております。

当院は総合病院であり他の診療科が充実していることから、他科の先生と連携を取りつつ診療を行うことができるのが特徴です。皮膚の状態から内臓の病気や骨の病気などが見つかることもあり、皮膚科だけでは完結できない病気をチームで診ることが出来ます。

Q 診療に当たり、先生はどのようなことを心掛けていますか？

A 皮膚科は難しい用語が多く、患者さん自身も自分の病気についてあやふやな知識を持ったままにしていることがあります。そのため手書きのイラストを用いたり、わかりやすい言葉に言い換えたりすることで、症状の原因や治療のゴールをお伝えすることを心掛けております。

Q これからの季節で注意したほうが良いことはありますか？

A 冬になると足のすねがかゆくなるといったお悩みはみなさんあるのではないのでしょうか。

皮膚が乾燥する季節になってきますと、皮膚を外からの刺激からバリアする力が弱まり、湿疹がでやすくなります。そうしてできる病気を皮脂欠乏性湿疹といいますが、適切なスキンケアで症状を和らげることが出来ます。



今回インタビューした先生のプロフィール

氏名 ● 菅井 奏良 (すがい そら)
 前職 ● 埼玉医科大学総合医療センター
 外来担当 ● 月～水曜日、金曜日の午前、午後 (第2,4火曜を除く)
 土曜日の午前



Q よくある疾病とその治療方法について教えてください！

A アトピー性皮膚炎はみなさんも一度は聞いたことがある病気だと思います。皮膚科に通院したけど治らない、日常生活に支障をきたしているけどもう慣れた、などといった声は外来でよく耳にします。しかし、実際には症状に合わせた適切な外用薬が処方されていないことや、そもそも塗る量が圧倒的に足りないなど、治療に少し工夫を加えれば改善が見込まれる患者さんが多いことも事実です。また、近年では注射剤や内服薬などの新しいアトピー性皮膚炎の治療も出てきているため、症状にお困りの方は皮膚科受診をおすすめします。

Q 最後に、市民の方へのメッセージをお願いします！

A 私が市民病院に赴任した当初は、外来にお越しになる患者さんの大半がご高齢の方であり、その多くが湿疹や水虫といった疾患でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が続き、マスクかぶれやニキビ、手指消毒に伴う手荒れなど、年齢に関係のない皮膚トラブルでお悩みの患者さんが増えてきております。

私は地域の方を幅広く診療したいと考えておりますので、皮膚の悩みや困りごとがあればささいなことでもお気軽に受診してください。

新しい医師が赴任しました！

整形外科 **木内 仁志**

- 出身地：東京都
- 前職：日本大学病院
- 専門分野：人工関節
- 趣味：映画鑑賞



地域の皆様のため、努力して参ります。

眼科 **正田 千穂**

- 出身地：埼玉県深谷市
- 前職：日本大学病院
- 専門分野：網膜硝子体、白内障
- 趣味：美味しいパン屋探し



前職では、網膜の黄斑変性や白内障手術の診療を行ってまいりました。ここ東松山で、皆様のお役に立てるよう頑張ります。目でお困りのことは、何でもご相談ください。

医師退職のお知らせ

令和3年9月末で、下記職員が医局人事異動により退職となりました。予約を取られている患者さんは、後任医師が担当させていただきます。

整形外科 **板垣 陽介**

眼科 **河野 通輝**